今月のトピックス

特集

会社訪問 -No.15
古川運送株式会社 様

全ての社員とその家族が、物心ともに幸せで、全ての方に信頼される会社を目指して

物流の人やモノを『つなぐ』という役割を大切にし、同社に勤める社員とその家族が物心ともに幸せになれる会社、さらに、総合的物流サービスの提供で地域物流の担い手として信頼され、必要とされることを経営理念とする古川運送㈱を訪問し、同社の経営理念に基づいた人材確保・育成の取組を取材した。

新築からまだ３年の古川運送㈱東金物流センター。事務所機能と冷蔵倉庫を併設した機能的な設計。福利厚生施設も充実している

■『働きやすい職場環境』の追求が女性ドライバー在籍率向上に直結

古川運送㈱（古川毅彦代表取締役社長）は、昭和 41 年に古川社長の父親で現会長である古川秀夫氏が創業。同 46 年に会社として組織化し、今年で創業からは 54 年、設立からは 49 年を迎える。古川会長から２代目の毅彦社長へのバトンタッチは平成 26 年で、毅彦社長が 37 歳、創業から間もなく 50 年となる時期だった。

同社は創業から、地元東金市周辺でガラス製品、農産物や肥飼料の輸送を手掛け、順調に事業を発展させてきた。

現在では、創業当時からの輸送品目に加えて、加工食品の冷凍・チルド配送をメインとして、その比重は全業務の約７割を占めるに至った。

この食品輸送を柱としていることが追い風にもなり、同社の人材確保・育成のなかでも特徴的な実績がある。現在、同社に在籍するドライバーは 130 人。このうち、女性ドライバーは 17 人で、全ドライバーに占める割合は約 13%となる。トラック運送業界全体では、約 2%前後といわれており、同社の女性比率はいわゆる桁違いに高く、同社の目標としては３割としている。

「会長が常々方針として掲げているのは、『他社に先駆ける取組』ということです。特に女性ドライバーの採用についても歴史は長く、平成２年の採用が第１号です。そこから新陳代謝を繰り返しながら徐々に増加し、瞬間的には２割を超えたこともありました。運送事業で女性は、体力面では不利な面もありますが、女性にも取り組みやすい共同・小口配送の中で、仕事に対するキメの細かい心遣いや丁寧さ、そして、明るい挨拶などから、お客様の声が好評で、女性ドライバーの良さを活かし、積極的に採用を続けています。特に、弊社は食品輸送で 24 時間３65 日、何かしらの業務がありますので、うまく勤務時間や仕事を創出し、『古川運送であれば能力を発揮できる』という環境を整えたいと考えています。『来ない（採用できない）』『仕事がない』という、できない理由を並べるのではなく、来ていただけるように、また、来ていただいた人にあわせて仕事を創出しています。女性や未経験者に限定して採用活動を行っているわけではないのですが、『働きやすさ』を追求した結果、女性や、新卒者、業界未経験者が多くなっています」（古川社長）

古川　毅彦　代表取締役社長

同社の人材採用の取り組みとして、もう一つ先進的と言えるのは、毎年、高等学校新卒者採用を行っていることである。こちらも平成 16 年度からと歴史は長く、ほとんど毎年複数名を採用している。この定期新卒採用だが、一度だけ、社内で「継続するか否か」の検討がなされた時があった。平成 19 年の中型免許制度導入時だ。この中型免許制度で、高卒者が即戦力として４トン車に乗務できなくなってしまうため、２年間というトラックに乗れない時期をどうするか議論になった。ここで会長（当時社長）の判断は「継続」だった。先行投資として考え総重量５トン未満の車を作って入社してすぐでも仕事ができるように工夫をした。

この判断は結果的に「吉」とでる。同社の新卒定期採用はその後も続いており、現在この制度で採用されたドライバーで最も長いキャリアの人材は、18 年度に採用したドライバー。このドライバーは現在、同社で班長となり、若手の人材教育も行うポジションになっている。

「新卒採用した人材が順調に育ち、10 年以上の歳月を経て、新卒採用した人材の教育にあたっていると考えると感慨深いものがあります。若手、未経験、また新社会人という新しい血が会社に入っ

女性専用のドライバー休憩室は明るく清潔感あふれる

男性用と女性用にきちんと分かれている、更衣室（ロッカー室）と仮眠室。

更衣室にはシャワーや洗濯機、洗面台などを完備している。

てくるということは、想像以上に会社にプラスとして働いていることが分かりました。女性が職場に入ると、雰囲気が変わるということはよく言われていますが、女性だけでなく、若い他業種からの人間が入るだけで、従来から働いている人間に対してもとてもいい刺激になり、会社全体が活性化するというメリットがありました」（同）

同社では、新しい人材が入ってきた場合や様々な新しい出来事が起こることによって、それに対応するため変革が続けられてきた。免許制度が変わった時に運転できるトラックがなくなった際には、会社全額負担の「運転免許取得制度」を設けた。それも教習所に通っている時も勤務時間としてみなされる。また、短い時間しか働けない女性ドライバーが入社したときは、軽トラックの冷凍車を新たに作って、その時間帯で働けるコースを創出した。

「新しい人材が入ってくるたびに新しい壁にぶつかり、これまでになかったルールや制度を作ってきました。そこで、基本方針としたことは、『社員の不利益にならない』という事でした。だからこそ、車を作ってでも雇用し続ける、費用を負担してでも免許を取ってもらうという結論です。弊社では基本はハローワークや人材募集媒体、地元高等学校からの採用が中心ですが、社員同士の紹介制度も導入しています。入社した人材が半年勤続すれば、紹介者に５万円の手当がある制度で、さらに半年継続して勤続１年になればさらに５万円という制度です。もっと利用されるのかと思いましたが、あるドライバーに聞いたところ、『信用のおける人間でないと会社に紹介できないので難しい』と言ってくれました。弊社は、茶髪やピアス、髭禁止、爪や指先を清潔に、制服をきちんと着用、挨拶をきちんと、など輸送品質のほかに『印象品質』という概念をもって指導・教育しています。この品質は一切妥協せず厳しく指導しています。せっかく弊社に入社したからには、最後まで頑張ってほしいからこそ、厳しく指導します。この一方で社員紹介制度では、過去に自分の子供や兄弟、親、義理のお父さんなど身内を連れてきた人もいました。『古川運送品質は守る』この精神を譲らずにきたからこそ社員に信頼され、そうでない方は淘汰されてきたのかもしれません」（同）

今後の人材確保・育成の展望としては、現在実施していることを継続し、一層磨きをかけることとする古川社長。新しい東金物流センターの新築の際にも、「働きやすさの追求」というその精神を存分に盛り込んだ。東金物流センターは 2016 年の竣工だが、増加する女性ドライバーの労働環境整備のために、トイレはもちろん、休憩室、更衣室（ロッカー）、仮眠室などを完全に別にした。シャワー施設付きのロッカー設置については、「制服で出勤して制服のまま退勤するのではなく、私服で通勤して、仕事終わりにはシャワーを浴びて着替えて、遊びに行ってほしい」と古川社長は語る。仕事とプライベートの両方を充実させてほしいという考えからだ。女性も未経験も、そして従来から働いている社員も働きやすい会社をつくっていきたいという考えだ。

「経営者としての会社との向き合い方を真剣に考えたとき、『信頼』という言葉が浮かび、また、一昨年に経営理念を策定しました。古川運送は『つなぐ』思いを大切にし、全ての方に信頼される。物流サービスを総合的に提供し、物流経済の担い手として必要とされる。全ての社員とその家族が物心ともに幸せになれる会社を目指します。というもので、嘘偽らざる思いです。この３つの理念を、社員全員に浸透し深めていきたいと考えています。物流は人と人をつなぐ架け橋です。弊社が 100 年企業としてこれからもつづくよう、仕事も思いもつないでいきたいと、そう考えています」（同）

ホットにゅーす

新型コロナウイルス感染症対策も徹底
食の安全とライフラインを守る自覚から

新型コロナウイルス感染症は、古川運送の業務にも影響を及ぼした。４月初旬からの全国 47 都道府県に発令された緊急事態宣言により、外出自粛要請が行われ、一般家庭での食事の機会が増えたことから、食料品輸送はまさにライフラインとしてフル稼働。元々 24 時間 365 日の休むことのない業務であるが、社会機能維持者としての役割は益々重要性を増していった。

このため、同社では、感染者やクラスターを発生させて業務が止まってしまえば、地域住民の日常生活に影響を与えてしまうため、感染拡大防止策にはすぐさま着手。手洗いの励行やマスクの着用等は当然のことだが、３密を避けるためにという理由で点呼をおろそかにはできない。このため、現在はスーパーやコンビニエンスストアで当たり前の風景となった、透明ビニールの仕切りを取り入れ、安全運行のためには絶対必要な点呼をこれまで以上に徹底している。また、事務所内でも隣の席との仕切りを活用するなど感染防止対策を実施している。

企業プロフィール

古川運送株式会社

代表取締役社長　古川　毅彦

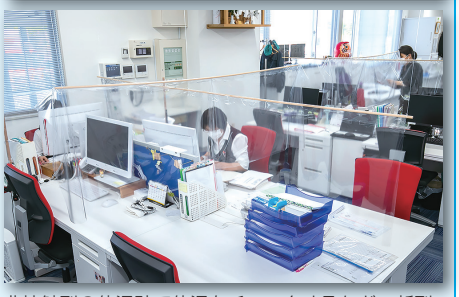
○本社営業所
　千葉県東金市薄島 338 番地 1

○松戸営業所
　千葉県松戸市上本郷 250-5

○東金物流センター
　千葉県東金市山田　1220-1

従業員　160 人（うちドライバー 130 人）

台数　105 台



非接触型の体温計で体温をチェックするなど、新型コロナウイルス感染症拡大防止に力を入れる同社の点呼（上）。事務所内でもビニールの仕切りを活用して感染拡大に努めている（下）